

ランナー	北河 英明	MCC50周年おめでとうございます。 パーティーも盛大でまた懐かしい思い出話で楽しいひとときを過ごすことが出来ました。 今後も ますますの繁栄を期待しています。
弥栄	岩田 聡司	MCC創立50周年おめでとうございます。 これだけの長い間活動が続いているのも 会長はじめ役員の皆さま方の手腕によるものだと感心しております。 あのエリカカップも始まりはMCCの企画レースだったのですね。私は初めて知ってびっくりしました。 先日の月例レースでは新たな参加艇もありハラハラドキドキの楽しいものとなりましたが、新たな会員、新たな世代が増え、この楽しい活動が末永く続くよう、私も微力ながら頑張りたいと思います

三河湾クルージングクラブ50周年記念パーティー、報告 うらなみ9世 近藤勝美 副会長

6月22日、三谷町の割烹千賀で参加艇26、出席者60人で50周年を盛大に祝うことが出来ました。冒頭の中村会長の挨拶では「1973年設立、初代会長は市川勇さん。1985年から約40年間、中村孝さんが会長を務めている。近年のヨット界全体の衰退にともなうMCCの会員数の減少が一番の懸念事項」とのことでした。出席者は過去20年間にMCCに所属したか、今も所属している60艇が対象で 年齢、体力、その他の事情で今はヨットから離れている人も多数参加していただき、参加者の年齢層も幅広く、改めてMCCの歴史は東三河のクルージングヨットの歴史そのものだと感じました。

MCCの会員数の減少は日本経済の失われた30年とも符合しており、その間に夢までも一緒に失ってしまった気がします。一方、出席者、欠席者のコメントを見ると皆さんの 海やヨットへの愛があふれており 胸が熱くなりました。ビデオと写真の映写が始まると 皆一様に食い入る様に見入り、過ぎ去った日々を懐かしんでいました。今は無くなってしまった大島フェスティバルの写真が映ると、私の今までの人生の中で最も印象深い人の一人が思い出されました。その人はずっと大島フェスティバルを仕切っており、大島フェスティバルなどという七面倒くさい言葉は使わず、いつも大島ヘッシバルと言っていました。金魚すくいや、流しそうめんで子供たちを喜ばせたり、からかったりして人気者でした。1970年代初めの世界的ベストセラーとなったリチャードバックの小説、「カモメのジョナサン」から取ったジョナサンシーガルという洒落た名前のヨットに乗り、小説の主人公のカモメのジョナサンと同じく 他人とは一味違うユニークな人で、無頼というかアウトロウの人でもありました。

小坂井の牛乳メーカーから期限切れギリギリの牛乳を安価に仕入れ、主に競艇場で働く女の人たちに安く売るといふ少しインチキ臭い商売を生業としていました。人懐っこいクルクルとした目をしており、いつもニコニコ笑っており、競艇場の未亡人の人たちに よくもてていました。容貌はチャップリンによく似ており、チョビヒゲを生やした時は更にチャップリンに似るかと思いきや、なかなかの悪党面になり、どちらかというクラーク・ケブルに似ていたのには驚かされました。

人を楽しませる天才で、私が20歳代後半から30歳代前半にかけて よく飲んだり、遊んだりしてもらい、その人の薫陶を受けました。その人が寅さんで私が甥っ子のミツオというような関係で 私の識っている悪いことの半分はその人から教わりました。私の人生の中で一番気楽で楽しかった時代は あの懐かしい、その人の笑顔とともにあります。

個人的な思いをツラツラと書きましたが、その人、ジョナサンの鈴木さんへのレクイエムだと思って許してください。最後に、MCCの発展とルートリスの田中さんのように また再び、海に出たいと思う人たちの夢が叶うように願って報告を終わります。

